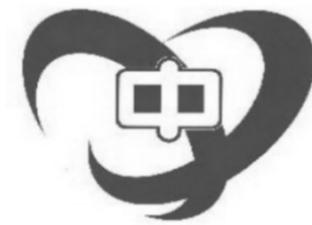


令和7年度 学校評価(前期)

報告書



令和7年7月

伊予市立双海中学校

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目		評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)					R6.12月 肯定率	
		○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者						4	3	2	1	肯定率		全体肯定率
1 教育課程・ 学習指導	・「分かる・できたを実感する授業」「考える授業」「伸びる授業」の実現のためのICTを活用した個別最適な学習の充実等による授業改善	①	○授業では、発表、実験、制作等自分の考えをまとめたり、表現したりする活動や体験活動の時間がよくある。 ◎双海中は、授業で自分の考えをまとめたり、表現したりする活動や様々な体験活動をよく実施している。 □本校は、「表現力」「読解力」の育成のため、各教科や総合的な学習等において、適切な言語活動や体験的活動を実施している。	A	【考察】 近年、表現力や思考力の向上を目指して、ICTを効果的に活用した授業改善に取り組んでいる成果により、生徒・保護者・教職員ともに高い肯定率を保つことができている。一人ひとりの生徒にとって習得した知識や技能を活用できる授業の創造が必要である。 【改善方策】 今後も、ICTを活用した個に応じた学習指導、及び、相手の意見や考えを理解して、互いに考えを深め合うことのできる学び合い学習の充実を図る。また、読解力や思考力、表現力等を着実に育成していくため、「問答ゲーム」や「eスタ学習帳」などの取組の質を向上させるとともに、各教科等でもその学びを効果的に活用する。充実に向け整備を進めている学校図書館も大いに利用しながら、読書活動等、活字を通して学ぶ場面にも引き続き力を入れる。	生徒アンケート	◎	65	28	7	0	93	98	100
			保護者アンケート	◎	48	52	0	0	100	100				
	教職員アンケート	◎	67	33	0	0	100	100						
	②	○私は、話をしっかり聞いたり、ノートをとったりして、授業にまじめに取り組んでいる。 ◎お子さんは、真面目な学習態度で、授業に取り組んでいる。 □本校は、学習四原則の徹底を図り、基本的な学習習慣の育成に努めており、身に付いている。	A	【考察】 生徒・保護者ともに高い肯定率である。生徒は、「話をしっかり聞く」「きちんとノートをとる」等の基本的な学習習慣を意識しながら授業に臨んでいることが分かる。「聞くこと」「書くこと」の大切さに着眼をおいた学習指導や生活指導にも丁寧に取り組んでいく必要がある。 【改善方策】 生活習慣や学習習慣の確立のために、教職員が目指す方向をしっかりと共通理解し続けるとともに、生徒への丁寧な指導を積み重ねていく。知識や技能を習得させること、及び、思考力・判断力・表現力等の育成における、「聞くこと」や「書くこと」の大切さに留意して学習場面を設定するとともに、魅力的な学習課題を設定し、生徒が「主体的」「対話的」にその解決に向かうことのできる問題解決的な学習の充実を進める。	生徒アンケート	◎	54	44	2	0	98	93	96	
		保護者アンケート	◎	37	57	7	0	93	94					
		教職員アンケート	◎	22	67	11	0	89	100					
③	○日々の学習内容をある程度理解し、意欲をもって学習している。 ◎お子さんは、授業の内容がある程度理解できていて、意欲を持って学習している。 □自分は、生徒が意欲的に授業に取り組むように工夫し、「分かる・できた授業」、「考える授業」、「伸びる授業」になるよう、授業改善に取り組んでいる。	A	【考察】 生徒の肯定率は、昨年度の12月の調査時からが向上している一方で、保護者の肯定率は若干下がっている。学習内容の理解に課題を感じている生徒も一定数いるため、個別最適な学習の充実が求められる。 【改善方策】 一人ひとりの生徒が意欲をもって学習に臨み、「分かる・できたを実感」できるように、ICTも効果的に活用しながら、個に応じた学習活動の充実を努めていく。「個別最適な学習」が具現化できるよう、日々の授業における見取りとともに、定期テストや小テストの分析を丁寧に行い授業改善につなげていく。数学科におけるティームティーチングの取組もさらに充実を図る。	生徒アンケート	◎	54	39	7	0	93	93	89		
	保護者アンケート	◎	14	72	7	7	86	88						
	教職員アンケート	◎	33	67	0	0	100	100						
④	・特別支援教育の視点による一人ひとりの生徒への全校的な支援	B	【考察】 昨年度の12月の調査と比較して、生徒の肯定率は向上している一方で、家庭学習への取組が不十分であることを自覚し、課題としている生徒も多い。また、保護者の肯定率は12月から減少している。全評価項目の中で全体肯定率が唯一Bとなっている項目である。生徒が自律的に学ぶことができるよう、指導の徹底が必要である。 【改善方策】 生徒が自律的に学びを進められるよう、家庭学習の課題の出し方等を工夫していく。また、自律的・計画的に学びを進めていくことの意義や自主学習の進め方について、各教科で丁寧に指導していく。家庭学習の習慣がしっかりと身に付くよう、積極的に家庭にも協力を求めていきたい。	生徒アンケート	○	36	41	21	3	77	83	69		
	保護者アンケート	○	21	52	24	3	72	94						
	教職員アンケート	◎	22	78	0	0	100	100						
⑤	・学校の教育活動や地域の活動における生徒の感動体験を通じた郷土愛や社会参画意識の醸成	A	【考察】 生徒一人ひとりの学習の様子に目が届きやすい利点を生かして、授業中に生徒の課題を教師が把握でき、高い肯定率となっている。一方で、教師にもっと質問するよう生徒に望む保護者の存在もあり、生徒の質問力・行動力の向上も求められる。 【改善方策】 教師は、授業における発問や説明、指示において、「分かりやすさ」に留意した言葉遣いや話の構成を行う。また、生徒が教師に質問・相談することへのハードルがさらに低くなるよう意図した生徒との人間関係作りや授業の雰囲気づくりをさらに進めていく。授業等において生徒が質問できる場の保証にも努める。	生徒アンケート	◎	52	45	2	0	98	99	94		
	保護者アンケート	◎	27	73	0	0	100	94						
	教職員アンケート	◎	56	44	0	0	100	100						
⑥	○私は、地域の行事に積極的に参加している。 ◎双海中は、地域の自然や伝統行事等を重視しており、お子さんは地域行事に積極的に参加しようとしている。 □本校は、地域の人材や自然、伝統行事などの教育資源を活用し、生徒は地域行事に積極的に参加しようとしている。 ◇双海中は、地域の人材や自然、文化財、伝統行事等の教育資源を活用し、生徒は地域行事に積極的に参加しようとしている。	A	【考察】 地域行事が減少している地域もあり、参加しにくい生徒もいるが、多くの生徒が公民館が主催している各種の活動やほたる祭り、トライアスロン等のイベントに、様々な形で参加し、生き生きと活動することができている。地域の教育資源の活用については、保護者やコミスクメンバー等にも惜しみなく協力していただいているため、積極的に学びに生かすことができている。 【改善方策】 地域行事が、生徒にとっては学校とは違う個性を発揮する場となっており、存在感を得ることにつながっている。今後もPTAやコミスクメンバー、公民館との連携をさらに強化し、地域の力も大いに借りながら、地域資源の教材化に努め、「自分が好き 学校が好き 双海が好き」の気持ちが生徒に高まっていくような教育活動を工夫する。	生徒アンケート	◎	60	30	8	3	90	96	90		
	保護者アンケート	◎	40	57	3	0	97	100						
	教職員アンケート	◎	70	30	0	0	100	100						
	地域有識者アンケート	◎	76	20	4	0	96	89						

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒44名、保護者30名、地域有識者28名、教職員10名 ※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目 ○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						R6.12月 肯定率
							4	3	2	1	肯定率	全体肯定率	
2 心の教育	・思いやりと感謝の気持ちを基盤とした支持的風土の醸成 ・「議論して考えを深める」特別の教科道徳と人権・同和教育の充実	⑦ ○私は、仲間(先輩・後輩・友達)のことを思いやり、協力して物事をやり遂げようとしている。 ◎お子さんは、他の人への思いやりや、協力して物事をやり遂げようとする心が育っている。 □本校は、互いの思いやりや、協働する心の育成に努めている。	A	【考察】 各学年の行事や縦割りのグループでの全校行事、あるいは部活動において、多くの生徒にとって温かい人間関係が構築されていることが分かる。ただ、3%の保護者、2%の生徒が「(どちらかと言えば)思わない」と回答している事実を目を向けることが大切である。 【改善方策】 学校行事や部活動以外でも、本校では協働的に学んだり物事を成し遂げる場面を意図的に設定している。場の設定だけではなく、思いやりや感謝、相互理解や寛容の心が着実に養われるよう、各教育活動の工夫・充実に努めていく。	生徒アンケート ◎	◎	59	39	0	2	98	98	98
				保護者アンケート ◎	◎	47	50	3	0	97	100		
				教職員アンケート ◎	◎	80	20	0	0	100	100		
				⑧ ○私は道徳の授業に真剣に取り組む、自分自身を見つめ直す機会となっている。 ◎双海中は道徳教育に積極的に取り組み、豊かな心が育つよう努めている。 □本校は、道徳の時間を要に様々な場面で道徳性の育成を心掛け、豊かな心を育成している。 ◇双海中は、いろいろな機会をとらえて人権教育や道徳教育など豊かな心の育成に力を入れている。	A	【考察】 大変高い肯定率となっている。道徳科の授業改善、人権・同和教育の取組、掲示物や朝の会・帰りの会の道徳性を高める取組等の成果がでているものと思われる。一方で4%の生徒が「(どちらかといえば)思わない」と回答していることに着目し、改善を図る必要がある。 【改善方策】 引き続き、道徳科の授業の充実を図るとともに、2学期以降は、担任以外の教員が行うローテーション道徳などの取組を進めていく。また、人権・同和教育の視点を核にした道徳科や学級活動の授業改善も、全校体制でさらに進めていくこととしている。加えて、学校行事や学級活動、総合的な学習の時間が、道徳的実践の場として機能するよう、有機的な関連を意識した教育課程の編成を行っていく。	生徒アンケート ◎	◎	59	37	2	2	95
		保護者アンケート ◎	◎	39	61	0	0	100	100				
		教職員アンケート ◎	◎	80	20	0	0	100	100				
		地域有識者アンケート ◎	◎	62	39	0	0	100	96				
		⑨ ○私は、自分自身を大切にしており、今の自分が好きだ。 ◎お子さんは自分自身を大切にしており、自尊感情が育まれている。 □本校は、一人一人のよさを認め、達成感を味わわせ、生徒の自尊感情の育成に努めている。	A	【考察】 保護者、教職員の肯定率と比較すると、生徒の肯定率が低くなっている。全国学力・学習状況調査(質問紙調)においても、自己有用感等の肯定率は県平均よりも低くなっているため、注意が必要である。 【改善方策】 自尊感情を育むという視点を明確に持って、生徒自身に達成感や自己肯定感を味わせられるように、各教科等の授業場面での工夫・改善を進めていく。自尊感情は、自分自身の達成感及び周囲からの賞賛や肯定的な言葉掛けの両方が必要であると考えられるため、日々の活動の充実と豊かな人間関係の構築の両面の取組を今後も充実させていく。	生徒アンケート ○	○	42	37	16	5	79	92	79
		保護者アンケート ◎	◎	39	57	4	0	96	100				
		教職員アンケート ◎	◎	40	60	0	0	100	100				
		⑩ ○私は、他の人の人権を尊重し、人に差別的な態度や言動をとっていない。 ◎お子さんは他の人の人権を尊重し、差別的な態度や言動をとらないようにしている。 □本校は、人権・同和教育の視点に立った指導を随時行い、「人権意識」の涵養に努めている。	A	【考察】 保護者、教職員の肯定率が100%であるが、生徒の5%が「どちらかといえば思わない」と回答している。一人ひとりの生徒の心に響く、また、行動につながる人権・同和教育の取組を積み重ねる必要がある。 【改善方策】 双海地区公民館と協働して、1学期には地元出身の画家の方の講演会を行ったり、公民館長から同和問題に関するお話をいただいたりした。2学期は地区別人権・同和教育研究会が本校を会場の一つにして開催されることも契機として、さらに質の高い教育実践を展開できるよう努める。人権・同和问题学習の積み重ねを通して、周囲を啓発し、差別解消へ向けた取組ができるような資質を身に付けさせたい。	生徒アンケート ◎	◎	67	29	5	0	95	98	100
		保護者アンケート ◎	◎	40	60	0	0	100	100				
		教職員アンケート ◎	◎	80	20	0	0	100	100				

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒44名、保護者30名、地域有識者28名、教職員10名 ※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目 ○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)					R6.12月 肯定率
							4	3	2	1	肯定率	
3 生徒指導	・いじめ・不登校・非行・事件・事故等の未然防止、早期発見・早期対応・早期解決のための家庭・地域・関係機関と連携・協働体制の強化 ・生徒理解・教育相談の充実と自己存在感や充実感を感じられる教育の推進 ・生徒の自主的活動を通じた自主性や自律性、規範意識等の社会性の育成	⑪ ○私のまわりでは、仲間はずしやいじめにつながるような言動は見られない。 ◎お子さんのまわりでは、いじめや仲間はずしは見られない。 □本校の生徒は、仲間はずしやいじめのような言動や差別的な態度をとったりしてはいない。	A	【考察】 保護者の回答の肯定率が、前年度の12月に比べて低くなっている。生徒の回答も危機意識をもって現状をとらえなければならない状況と言える。潜在的な人間関係のトラブルは常に存在しているとの意識で生徒の人間関係を見つめていかなければならない。 【改善方策】 引き続き生徒に関する情報交換を日ごろから密にし、全教職員で共通理解のもとで指導に当たることを常とする。生徒の行動につながる人権学習をさらに充実させ、日常生活における自分の言動を振り返り、改善することができるような感性や行動力を身に付けさせていく。また、人権侵害に当たる言動については、見過ごさず、丁寧な指導を行っていく。	生徒アンケート ◎ 70 23 3 5 93 保護者アンケート ○ 35 45 17 3 79 教職員アンケート ◎ 40 60 0 0 100	◎	91					87 87 88
		⑫ ○先生は、私たちによく声をかけてくれたり、いじめなどが起こらないように努力してくれたりしている。 ◎双海中は、いじめ・不登校等の早期発見や早期対応に努力している。 □本校は、日々の生徒の様子に気を配り、小さな変化や言動にも配慮し、いじめ・不登校等の早期発見・早期対応に努めている。	A	【考察】 昨年度12月と比較して、保護者の肯定率は向上しているが、生徒の肯定率は低下している。教師は指導・対応しているつもりでも、生徒には届いていないことも考えられる。また、教師に関わってほしいことがあっても、直接言いにくい生徒も存在していると考えられるため、様々な面から生徒を捉えていくことが必要である。 【改善方策】 今後も、生徒の日々の言動や表情の変化に気付くことができるよう、教職員が積極的に関わっていく姿勢を持ち続けなければならない。スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等の専門家とも連携を密にし、一人ひとりの生徒への目配り、気配り、心配りを怠らなく行っていく。不登校生徒については、上記の外部人材のほかにフリースクールや子ども家庭センター等の専門機関とも連携しながら個に応じた支援をしていく。	生徒アンケート ◎ 53 34 8 5 87 保護者アンケート ◎ 30 61 9 0 91 教職員アンケート ◎ 70 30 0 0 100	◎	93				92 77 100	
		⑬ ○双海中の生徒会行事や委員会活動は活発に行われ、私も自分の責任を果たそうとしている。 ◎双海中は、生徒会行事や委員会活動の活性化によるリーダーの育成や、仲間づくりに努めている。 □本校は、生徒会行事や委員会活動の活性化によるリーダーの育成や仲間づくりに努め、成果を上げている。	A	【考察】 肯定率は三者とも前回同様高く、生徒会行事や日々の委員会活動により、生徒自身が自主的な活動を行うことができる状況であるといえる。しかし、生徒、保護者ともに肯定できない状況があることもしっかりと受け止め、生徒一人ひとりが自分の責任を果たしていこうとする心情を高める教育活動を展開していく必要がある。 【改善方策】 1学期末に行われた生徒総会では、生徒会役員を中心に、全校生徒で積極的な話し合い活動を行うことができた。今後も戦略的に生徒会行事や委員会活動を充実させるとともに、生徒の自主的かつ自発的な活動を促すという視点とリーダーの育成にも力点を置き、諸活動の実践計画を設定していきたい。	生徒アンケート ◎ 66 32 0 2 98 保護者アンケート ◎ 41 52 7 0 93 教職員アンケート ◎ 50 50 0 0 100	◎	97				98 93 100	
		⑭ ○私は、大きな声でのあいさつ・中学生らしい服装・場に応じた言葉遣いなどの基本的な生活習慣が、きちんと身に付いている。 ◎お子さんは、家庭や地域で、あいさつ・服装・言葉遣い等の基本的な生活習慣がよく身に付いている。 □本校は、挨拶・服装・言葉遣い等の基本的な生活習慣の確立と規律ある生活態度の育成に十分取り組んでいる。 ◇双海中生は、地域で明るいあいさつや適切な言葉遣い、きちんとした服装ができています。	A	【考察】 非常に高い肯定率となっている。特に地域有識者アンケートの項目のうち、「4 そう思う」の回答率が最も高い項目が本項目となっている。生徒達は、身だしなみに気を付けて、中学生らしい言動で生活することができるとともに、地域でのあいさつが大変よくできている状況である。ただ、忘れ物が多いことを理由に「どちらかといえばそう思う」と回答している状況も見られる。 【改善方策】 中学生として望ましい生活習慣の確立のために、家庭の協力を求めていく。特に睡眠時間の確保やスマートフォンの使い方に関しては、特に重点的に啓発を行っていききたい。あいさつがよくできていることについては、本校の良さとして改めて認識させ、あらゆる場面で気持ちの良い挨拶ができるよう、声掛けを継続していきたい。忘れ物が多い生徒については、家庭にも協力を仰ぎながら、改善に向け、効果的な方略を生徒とともに考えていきたい。	生徒アンケート ◎ 59 39 2 0 98 保護者アンケート ◎ 47 53 0 0 100 教職員アンケート ◎ 60 40 0 0 100 地域有識者アンケート ◎ 81 19 0 0 100	◎	99				94 94 100 100	
		⑮ ○日記(あゆみ)や先生方との対話、教育相談等で、先生と交流が図られている。 ◎お子さんは、日記(あゆみ)や教育相談等を通して、先生方とのコミュニケーションが図られている。 □本校は、機会を捉えて声掛けや教育相談を行い、日常の教育相談的対応を通して生徒との交流を深めようとしている。	A	【考察】 各学級担任は多忙な中でも日記指導や小まめな声掛けにより、生徒とのコミュニケーションをとり、生徒理解に努めている。あゆみで教員とやり取りすることを楽しみとしている生徒もいる。一方で、あゆみの積極的かつ効果的な活用を求める保護者の声もあり、検討していかなければならない。 【改善方策】 生徒と教職員との対話については、教職員の業務改善をさらに進め、教師がゆとりをもってじっくりと生徒と関わる時間を創出できるよう取り組んでいく。あゆみは生徒にとって学校での安心を生み出す機能もあるため、効果的に機能するよう取組を継続する。	生徒アンケート ◎ 51 39 8 3 90 保護者アンケート ◎ 41 56 4 0 96 教職員アンケート ◎ 60 40 0 0 100	◎	95				94 94 100	

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒44名、保護者30名、地域有識者28名、教職員10名 ※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目 ○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)					R6.12月 肯定率	
							4	3	2	1	肯定率		全体肯定率
4 健康安全 教育	・心身を鍛え、健全育成と自己実現に資する部活動の推進	⑩ ○双海中の部活動は意欲的に行われており、私がかんばって取り組んでいる。 ◎双海中は、部活動に意欲的に取り組み、その活動は充実している。 □本校の部活動は適切に運営され、生徒は意欲的に活動している。 ◇双海中生は、部活動に意欲的に取り組み、その活動は充実している。	A	【考察】 昨年度12月と比較して、生徒の肯定率は若干下がったものの、4者ともに高い肯定率と言える。部活動に所属している生徒で「どちらかと言えば思わない」、保護者で「(どちらかと言えば)思わない」と回答している状況もあることも踏まえ、一人ひとりにとって充実した部活動となるように留意する必要がある。 【改善方策】 部活動の目的が人間力の向上であることを念頭に置き、頑張っていることや成長していることを認め、生徒が充実感を持てる部活動経営を推進する。また、今年度から新設した卓球部についても、外部指導者とも連携しながら運営を軌道に乗せていきたい。本市では部活動の地域以降に向け、積極的に準備が進められているため、行政や伊予市内の他校とも連携を密にし、部活動の新たな形にも生徒が戸惑うことなく、意欲的に取り組めるようサポートしてしていきたい。	生徒アンケート	◎	73	20	7	0	93	96	94
					保護者アンケート	◎	50	43	4	4	93		88
					教職員アンケート	◎	70	30	0	0	100		88
					地域有識者アンケート	◎	74	26	0	0	100		96
4 健康安全 教育	・命を守るための学校安全に関する危機管理体制の強化及び安全指導の徹底	⑪ ○私は、まわりの人が危険になるようなことはせず、安全に気をつけている。 ◎双海中は、安全指導が行われ、事故防止に努めている。 □本校は、学校安全に関する危機管理意識の高揚と、安全指導の徹底による事故防止がきちんと行われている。	A	【考察】 昨年度12月同様に、三者とも高い肯定率を保っている。大部分の生徒は安全や危険防止を意識した学校生活を送ることができているが、2%の生徒が「思わない」と回答していることにも留意し、引き続き丁寧な指導を積み重ねていくことが大切である。 【改善方策】 生徒自身が災害等のリスクに適切に対応できる力を身に付けさせるため、より実践的な危険への対処、危機回避を含めた避難訓練を実施するなど、指導を積み重ねていく。また、校内でも高い安全意識を保ったまま生活できるよう、また、生徒自身でも潜在的な危険を見抜く目が育つよう、引き続き、機を捉えた積極的な指導を行っていきたい。	生徒アンケート	◎	68	29	0	2	98	99	98
					保護者アンケート	◎	50	50	0	0	100		100
					教職員アンケート	◎	60	40	0	0	100		100
					地域有識者アンケート	◎	74	26	0	0	100		96
4 健康安全 教育	・健康安全に関する指導の充実と、衛生的で安全な給食指導の徹底	⑫ ○私は健康に気を付け、手洗い・うがいや給食時の衛生にも気を付けている。 ◎双海中は、健康や衛生管理の指導を適切に行い、生徒のけがや病気等に適切に対処している。 □本校は、生徒の健康維持のための適切な健康安全教育や衛生的で安全な給食指導の徹底を図っている。	A	【考察】 3者ともに高い肯定率であるが、睡眠時間の短さや家庭での間食の多さに課題を感じている生徒もいる。また、バランスの良い食生活という観点から課題が見られる生徒も存在している。生徒が自律的に健康維持に留意できる指導を重ねる必要がある。 【改善方策】 1学期には熱中症防止の観点から、登下校時の冷却マフラーの使用を可能にしたが、今後も生徒の健康維持のために必要な処置は積極的に行っていききたい。2学期には思春期教室を全学年で行う予定としているため、指導の工夫を図るとともに、保健だより等も効果的に活用しながら、生徒の健康や衛生面への意識を高めていきたい。また、家庭とも連携を密にし、生活習慣も含め健康的な生活が維持できるよう指導を行っていく。	生徒アンケート	◎	70	26	5	0	95	95	96
					保護者アンケート	◎	47	43	7	3	90		75
					教職員アンケート	◎	80	20	0	0	100		100
					地域有識者アンケート	◎	74	26	0	0	100		96
4 健康安全 教育	・潜在危険個所の把握や防災・減災対策の確立	⑬ ○私は、登下校の時、交通ルールを守り、安全な通学ができています。 ◎双海中では、登下校の安全指導をしっかり行い、生徒が安全かつ安心して通学できるように努めている。 □本校では、登下校の安全指導をしっかり行い、生徒が安全かつ安心して通学できるように努めている。 ◇双海中は、登下校の安全指導をしっかり行い、生徒が安全かつ安心して通学できるように努めている。	A	【考察】 昨年度12月同様に高い肯定率であるが、1学期は、ヘルメットの着用に関する課題がみられる状況もあったため、生徒の交通マナーや危機管理意識を向上させていくことについては、普段からの継続した指導が大切である。通学路や生活道路における危険個所について、保護者、地域から積極的に声をいただいていることもあり、丁寧な指導を積み重ねられる環境を今後も生かしていきたい。 【改善方策】 双海地域は、平日よりも休日の方が交通量が多くなる。そのため、家庭や地域で過ごすときにも、事故に遭わないように、自分で適切に安全について判断できるよう指導する必要がある。PTA専門部が中心となって通学路点検や児童生徒を守り育てる協議会、保護者・地域からの声を十分に生かし、地域の状況にあった具体的な安全指導を行っていく。また、ヘルメットの着用など通学路上での安全指導も力を入れていきたい。	生徒アンケート	◎	84	16	0	0	100	98	100
					保護者アンケート	◎	45	48	7	0	93		93
					教職員アンケート	◎	60	40	0	0	100		100
					地域有識者アンケート	◎	74	26	0	0	100		89

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒44名、保護者30名、地域有識者28名、教職員10名 ※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目 ○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						R6.12月 肯定率
							4	3	2	1	肯定率	全体肯定率	
5 保護者・地域との連携	・目標やビジョンを共有・共創する学校運営協議会の構築 ・積極的な情報発信や情報交換による家庭・地域・関係機関との信頼関係の確立と連携・協働体制の強化	⑳ ◎双海中は、ホームページや各種通信・配布文書、家庭訪問・懇談会・電話等により、学校の様子を伝えている。 □本校は、各種通信や配布文書、家庭訪問・懇談会・電話連絡等による積極的な情報提供を行っている。 ◇双海中は、ホームページや各種通信・配布文書により、学校の様子を知らせる情報提供に努めている。	A	【考察】 非常に高い肯定率である。学級通信や学校便り、保健便り等に確実に目を通していただいていること、ホームページも多くの方に閲覧していただいていることに深く感謝している。一方で参観日の来校者が減少していることを指摘する声もあるため、工夫改善が必要である。 【改善方策】 各種の便りやホームページについては、生徒の活躍の姿や学校の様子を掲載するほか、生徒の考えや思い、学校の教育方針を分かりやすく届けられるようさらに工夫していきたい。また、双方向性のある便りについても要望があるため、検討していきたい。参観日等の生徒の様子を見ていただける機会には、コミスクメンバーに案内状を配付するとともに、ホームページでも広報するなど、広く地域の方に様子を見ていただけるよう工夫していきたい。	保護者アンケート ◎ 70 30 0 0 100 教職員アンケート ◎ 90 10 0 0 100 地域有識者アンケート ◎ 67 33 0 0 100	◎	100	100	100	100	100	100	
		㉑ ◎あなたは、PTA活動に協力的にかかわり、学校や地域との積極的な交流に努めている。 □本校では、活発なPTA活動が展開され、保護者や地域、関係機関との積極的な連携に努めている。 ◇双海中は、活発なPTA活動が展開され、保護者や地域、関係機関との連携が行われている。	A	【考察】 今年度も保護者の皆さんにPTA活動にご協力いただいている。「ほたる祭り」でのバザーには、事業部を中心にたくさんの協力を得た。また、PTA懇親ソフトバレーボール大会でも和気藹々とした雰囲気の中で大会と懇親会通じて親睦を図ることができた。諸行事等においても、コミスクメンバーや関係機関から多大な協力をいただき、質の高い教育活動を展開することができた。 【改善方策】 コミスクメンバーの方にも様々なご協力いただきながら、大変活発なPTA活動が展開されている。PTA専門部の役員の方も、より良い活動にするため創意工夫していただき充実した活動が展開されている。さらに多くの保護者に関わっていただけるよう学校としても広報活動等に力を入れたい。また、各教育活動がさらに質の高いものとなるよう、コミスクメンバーの力を借りながら保護者・地域・関係機関ともより一層連携を深めていきたい。	保護者アンケート ◎ 27 63 3 7 91 教職員アンケート ◎ 90 10 0 0 100 地域有識者アンケート ◎ 75 25 0 0 100	◎	97	97	97	97	97		
		㉒ □本校は、学校開放等を適切に実施し、開かれた学校づくりが行われている。 ◇双海中は、学校開放等を適切に実施し、開かれた学校づくりが行われている。	A	【考察】 非常に高い肯定率である。コミスクメンバーの皆さんには多くの協力をいただきながら開かれた学校づくりを推進することができており、地域の実態に応じた質の高い教育活動が展開できているのもその成果の一つと言える。参観日の来校者が減少しているという実態も踏まえ、さらに開かれた学校となるよう工夫することが大切である。 【改善方策】 今後も、折に触れて参観日や学校行事等の実施について案内し、地域の方にも生徒の様子を見ていただけるよう広報活動等を工夫する。また、コミスクメンバーが学校運営に参画する機会をさらに多くしていき、学校と協働して質の高い教育活動を生徒に展開できるよう図っていきたい。地域の方に各教科等の授業に参画していただくことも検討していきたい。	教職員アンケート ◎ 80 20 0 0 100 地域有識者アンケート ◎ 67 33 0 0 100	◎	100	100	100	100	100	86	

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒44名、保護者30名、地域有識者28名、教職員10名 ※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目 ○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)					R6.12月 肯定率
							4	3	2	1	肯定率	
6 研修・ 管理運営	・規律保持・服務規律の徹底と心身の健康管理への配慮	⑳ □本校では、適切な研修が実施され、教職員の資質・能力の向上や自己研修に役立っている。	A	【考察】 今年度、中予地区人権・同和教育研究協議会の会場校となっていることもあり、人権に関わる問題やその指導に関する教員研修を積み重ねることができている。ベテランの人権・同和教育主任はもとより、若手の研修主任や生徒指導主事等も大変熱心に校務に当たってくれており、教職員の資質・能力の向上に有益な情報を適宜共有し、全教職員が伸び合う雰囲気が醸成されている。 【改善方策】 人権・同和教育については引き続き全教職員での研修を重ね、質的向上を図っていく。また、今後は各教職員が自らのキャリア形成に必要な研修を深めていくことができるよう、学校外で行われる研修にも参加しやすい状況をつくっていききたい。	教職員アンケート	◎	60	40	0	0	100	100
	・教職員のキャリアステージに応じた校務分掌と研修の充実による資質・能力と働きがいの向上	㉑ □本校は、連絡・報告・相談を的確に行い、服務規律を遵守し、協働体制の確立に努めている。	A	【考察】 本校では、職員会のみならず、情報共有は日常的に活発に行われており、よりよく学校運営が成される体制が機能している。服務規律の遵守も、校長の指導及び各自の意識の高さのもと、確実に守られている。 【改善方策】 教職員同士の豊かな人間関係のもと、校長の示す学校経営のビジョンに全教職員がベクトルを合わせて諸活動に協働して取り組むことができている。また、連絡・報告・相談も密に行われており、それらが生徒の快適な学校生活や教育活動の質の高さ、保護者・地域の信頼につながっていることに一層留意し、今後も「普段を大切に」した教育活動を推進する。	教職員アンケート	◎	90	10	0	0	100	100
	・働き方改革の推進による業務改善と温かみのある職場環境づくり	㉒ □本校の職員室の雰囲気は温かく活力のある職場環境となっている。	A	【考察】 生徒の情報交換を中心に、教職員間で多くの会話がなされ、明るく活気のある職場となっている。また、若手教員が生き生きとした表情で教育活動に当たってくれていることも、職場の雰囲気を一層明るいものにしてきている。それぞれが互いの業務にも気を配りながら、協力し合うこともできている。 【改善方策】 本校は小規模の学校であり、一人が受け持つ校務の量が規模校に比べると多いが、校長の指導のもと、全教職員が個性を発揮しながら積極的に学校運営に参画することができている。今後も全教職員が自身のキャリアステージに応じた働きがいをもつことができるよう留意していききたい。	教職員アンケート	◎	90	10	0	0	100	100
	・施設や備品及び薬品の等の点検・整備とその効果的な活用	㉓ □本校では、適切な物的管理と事務管理が行われている。	A	【考察】 会計に関しては、ダブルチェックまたはトリプルチェックする体制となっており、適切に処理されている。施設や設備の安全管理についても定期的及び必要に応じた点検が実施され、校内の危険箇所が放置されるようなことはなかった。備品も適切に管理されている。学校環境の保全のため、PTA奉仕作業にも多くの方が参加していただき感謝している。 【改善方策】 会計管理については、校長の指導のもと、より一層厳正に管理されている。施設・設備の管理、事務管理についても引き続き適切に行っていく。また、潜在的な危険箇所にも思考が及ぶように教職員間で意識を働き合わせていく。本校の人間関係の良さに流されることなく、管理面については引き続き厳格に行っていく。	教職員アンケート	◎	80	20	0	0	100	100
	・校務分掌事務と迅速かつ的確な処理と学校運営の円滑化	㉔ □自分は、業務改善や長時間労働にならないことを意識した働き方ができている。	B	【考察】 おおむねワークライフバランスを意識して勤務することができているが、年度初めは事務処理等も多く、また、6月からは部活動の指導時間も長くなるため、ひと月の超過勤務時間が長くなりがちであった。 【改善方策】 超過勤務時間が多くなる原因の大部分は、部活動の指導であるが、本市における部活動の地域移行の動向を踏まえながら、本校における働き方改革を進めていきたい。2学期からは勤務時間の削減も視野に入れ、原則水曜日を5時間授業で部活動指導もなしの日に設定している。併せて教職員一人ひとりの働きがいが増大するよう留意していききたい。	教職員アンケート	◎	22	56	11	11	88	88

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒44名、保護者30名、地域有識者28名、教職員10名 ※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均